

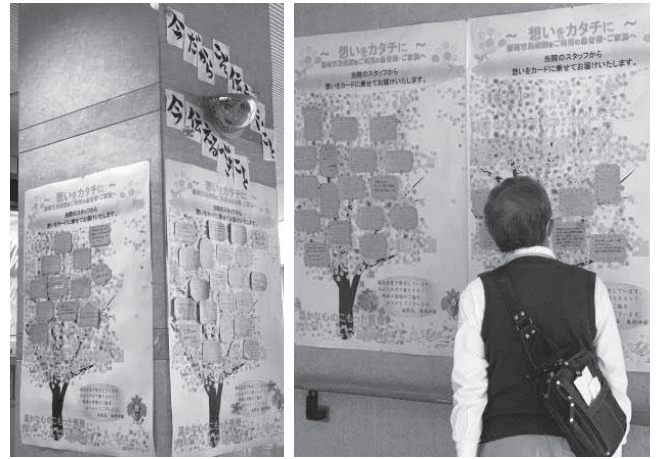


## 温かな心のこもった医療 ～想いをカタチに～

市民病院は開院以来、「温かな心のこもった医療の提供」を基本理念として地域医療に携わってまいりました。今、世の中のだれもが、このはじめて体験する事態に、心配や不安をめぐえずに過ごす日々が続いていることと思います。この最中であって、日ごろから病と向き合いながら暮らしている患者さん、患者さんを支えるご家族、また、患者さんやご家族に寄り添い支援している各スタッフに、今こそ温かな心を形にしてお届けし、少しでも気持ちの安らぎを感じていただきたいと思い、取り組みを開始しました。

メッセージカードを配布し、記入していただいたものを順にメッセージツリーに「言の葉」として中央ホール会計前と中央庭園横付近の柱や壁に張り出しました。

みんなの言葉で励ましあい、応援しあうことで、互いの心を温め支えあえると信じています。



### 小学生病院体験ツアーを中止します

例年、7月下旬に開催しておりました小学生病院体験ツアーですが、新型コロナウイルスの感染の状況を鑑み中止とさせていただきます。

## 碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内  
市史資料調査室  
☎ (41) 4566

### No.73 油ヶ淵の誕生(2)

矢作川の流れが北浦に流れ込むことで、北浦沿岸の村々はこれまでにない水害地域となりました。これまでは三河山間部に降った雨は、矢作古川を流れていました。しかし、本流が北浦に流れ込むことから、大雨ともなると北浦沿岸村々の田畑は水に沈んだと伝えられています。このような状況は「水冠」「水損」と古文書に書かれています。

矢作川洪水のたびに北浦沿い村々の被害は、大きくなりました。村々の領主は、幕府に米津から鷺塚までの堤防を築くよう陳情しました。この時、米津村の領主は井伊直之、西端村と城ヶ入村の領主は本多忠将、東端村・根崎村・榎前村は松平正綱、鷺塚村領主は西尾藩主太田資宗でした。大藩の尾張と違い三河は、小大名や、旗本の領地が複雑に入り組む支配地域でした。領主らは幕府に働きかけ幕府直轄事業として、米津から鷺塚まで堤防が築かれることになりました。

幕府直轄といっても、幕府の出費は1割ほどで、関係領主が費用負担を命じられることがほとんどで

した。北浦に矢作川の水が流れ込まないようにする工事は、北浦周辺村々の百姓の労働力で行われたといえます。この時代の道路・橋・水路・堤防などの土木工事は普請という言葉が使われます。普請という言葉には「広く平等に奉仕を願う」という意味があったとされます。生活に必要な社会基盤は地域住民で作り維持していくものと考えられていました。湖沼となった北浦の呼び方は、村や人により、様々でした。「蓮如池」「北浦の池」「大池」「油ヶ淵」などです。明治になり陸軍参謀本部が地図を作ると、池の名前は「油ヶ淵」と書かれました。



△油淵之碑 文政4年(1821)9月建立  
西端油ヶ淵遊園地内